

平成28年度 事業報告書

〈総括的概要〉

平成28年度につきましては、大変厳しい経済環境下ではありましたが、経営収支レベルで2百万の黒字で終わることができ、最終収支差額としてマイナス14百万という結果で予算を達成することができました。

収入の内訳としましては、年初以来マイナス金利に突入するという事態が発生しましたが、基本財産運用利息収入を予算通り確保することが出来ました。

また、事業収入につきましては、プロフェッショナル・コースを除く基幹コースが苦戦したものの、ファッションビジネス研究会の参加企業が53社となったうえ、カスタムメイドが2桁増となった結果、収入合計としては予算を達成することができました。

尚、支出につきましても、対前年・対予算ともに抑えることができました。

平成29年度は、当財団設立25周年、I F I ビジネス・スクールが開校して20周年という節目の年になります。この四半世紀の間に繊維、ファッション業界を取り巻く環境は大きく変化してまいりました。

特に、グローバル化とデジタル化という波はファッション産業の構造そのものを大きく変え、流通まで変化させてきました。

そして、その変化のスピードは年々早くなり、その対応は急務と考えます。

今後、「第4次産業革命」の流れに乗れるかが企業の発展の鍵を握り、新しいビジネスモデルの創造が急務であるとも云われています。

I F I ビジネス・スクールとしても、各企業のニーズに応じていける講座及びカリキュラム編成に対して更なる努力をしていくつもりです。

尚、日々進化するオムニチャネルの構築に向けて対応できる講師陣の更なる強化も行っていきたいと思っています。

そして本年も継続して、日本の繊維、ファッション産業界に若き優秀な人材を迎え入れるために大学講座の充実、ファッション産業説明会、産学連携等に積極的に取り組んでまいります。

世界情勢も経済環境も、何があってもおかしくない時代であることを再認識し平成29年度は、“I F I 変革の年”と定め経営してまいります。

平成28年度 事業活動概要

I. 事業実施状況

実施事業

継続1事業

基幹コース

●マスター・コース（全日制1年間）

ファッションビジネスの基本を総合的、体系的に学ぶ全日制的コース。「創」・「工」・「商」のバランス感覚を備えたファッション業界の次世代リーダーを育成する。

1年間集中の実践型トレーニングにより、素材、商品知識からマーケティング、マーチャンダイジング、マネジメントレベルに至るまでの一貫した知識・能力を醸成する。また教室での授業だけでなく、「産地研修」や「生産現場実習」などの国内研修に加え、海外研修として「米国研修」を実施するなど、短期間では習得できない「実学」を重視したカリキュラム編成。

28年度の講義内容については「IT関連講座」の強化など、時代性に合った新しいカリキュラムを積極的に導入すると共に、「プレゼンテーション能力」を高める為の講座も強化するなど魅力ある講座づくりに邁進した。また、「すみだプロジェクト」では、地元墨田区のイベント“スミファ”に参加し、地元企業との連携を深めることが出来た。

28年度の総時限数は715時限。

●プロフェッショナル・コース

現場実務者向けの夜間週一回、半年間に渡る実践コース。ファッションビジネスの第一線で活躍している講師陣による講義を通して、知識を習得すると共に、グループワークによる「課題発表」などを通じて、受講生相互間のネットワーク構築が出来るコースとして評価を得ている。

平成28年度は「ファッションMDの基礎」「ファッションMDの実践」という従来のコースに加え、前年度よりスタートしたテキスタイルMDに重点を置いた「モノ創り講座」の3コースを実施した。百貨店のバイヤーや売り場担当、アパレルのMDの他、ビームス、アダストリア、ベイクルーズ、マークスタイラーなどのセレクト系企業からの派遣があった事により、「プロフェッショナル・コース」合計の年間集客予算140名に対し、154名の受講生を集客する事が出来た。

講座名	期間	開催日
「ファッションMDの基礎」	4～9月	月曜
「アパレルMDの実践A」	4～9月	水曜
「アパレルMDの実践B」	4～9月	木曜
「モノ創り講座」	4～9月	金曜
「ファッションMDの基礎」	10～3月	月曜
「アパレルMDの実践A」	10～3月	水曜

「アパレル MD の実践 B」	10～3月	木曜
「モノ創り講座」	10～3月	金曜

● マネジメント・コース

ファッション関連企業の中堅幹部向けコース。戦略論、マーケティング論、H・R・M論、交渉学など、マネジメントに必要な基礎理論の授業に加え、ワークショップも取り入れた実践的なカリキュラム。対象となる多忙な受講生が参加し易い様、平日の夜間と土曜日を組み合わせた実践的な講座編成で実施。

講座名	期間
事業改革プログラム 「既存事業の改革プランの立案」	5月・6月 (8日間)
事業創造プログラム 「新規事業創造プランの立案」	10月・11月 (8日間)

● エグゼクティブ・コース

経営者および経営幹部向けのコース。夏期セミナーは一泊二日の合宿形式。28年度は7月23・24日の2日間、ホテル ニューオータニを会場として開催。

今回は、「グローバル×デジタル」というテーマのもと、日産自動車(株)の志賀副会長の「デジタル化の波が押し寄せる劇的変化の中で、いかに新しいビジネス・モデルを構築すべきか」と題した特別講義を筆頭に、SMB Cの司部長には「今後の日本経済や市場の展望」について、内閣官房の浜野政策参与には「外の力をどう取り込んでファッション業界を活性化していくのか」について、小松精練(株)の池田社長には、「自社の高次加工技術をベースに、海外メーカーと連携し高感度な付加価値素材の実現を目指す」という世界で戦う為の独自のビジネス・モデルについて、(株)アパレルウェブの千金楽社長には、日本に先駆けてICTの活用が進むアメリカの事例をもとに、「シェアリングエコノミーとパーソナライズが消費を変える」と題して、これまで通りが通用しない時代を生き残って行く為に必要なのかを講義頂いた。

講座内容の充実は勿論の事、施設やホスピタリティーについても更なるグレードアップを図った結果、受講後アンケートに於いて、カリキュラムの内容、講座運営、施設や食事面などすべての点で高い評価を獲得することが出来た。

テーマ	期間
EXC 「グローバル×デジタル」 — ファッション産業の未来を創る —	7月23・24日

特別プログラム

●短期集中講座

特定分野を深耕する為、短期間に集中して実施する講座。ストリート・フォトグラファーのシトウレイ氏をコーディネーターに起用した「シトウレイ ファッションセミナー」の継続と、「実践VMD」も年2回に拡大、eラーニングの「アパレル素材の基礎知識」は、平成28年12月の洗濯表示変更に伴い、一部内容を改定した。

テーマ	期間
・実践ビジュアル・マーチャンダイジング	6月、11月
・シトウレイ ファッションセミナー	4月20日、11月10日
・e-Learning 「素材の基礎知識」	随時
・e-Learning 「洗濯・保管の基礎知識」	随時

●地方開催講座

プロフェッショナル・コースの内容を凝縮し、5日間に集大成して大阪（ドーン・センター）で開催。

テーマ	期間
・大阪開催講座	5～6月、10月～12月

●大学講座

「ファッション人材の育成事業」の産学連携プロジェクトとして、大学の学部にてファッション・ビジネスの基礎講座を単位付で設置し運営した。平成28年度は7大学8講座。

大学名	学部	講座名
青山学院大学	青山スタート教育機構	感性ビジネス講座 ファッション産業のフロンティア
青山学院大学	青山スタート教育機構	感性ビジネス講座 ファッションビジネス戦略論
明治大学	商学部、全学部共通	ファッション・ビジネスの実際
東京経済大学	経営学部	産業特論Ⅰ・ファッションビジネス論
同志社大学	経済学部	クリエイティブ産業論
目白大学	社会学部	ファッション・ブランド戦略論
横浜市立大学	国際総合科学部	ファッション・ビジネス戦略論
首都大学東京	都市教養学部	経営学特殊講義・ファッション産業の現在
計		7大学 8講座

●ファッション産業説明会（ファッション・ビジネス・ガイダンス）の開催

繊維ファッション産業への就職を目指す学生を対象に、無料で説明会を開催。この説明会は、繊維ファッション産業の現状や構造、仕事の内容等を解説するとともに、優秀な学生にこの業界に就職してもらうのが狙い。

- ・ 2月1日 : 「ファッション業界の現状と仕事について」「メイド・イン・ジャパンのもの創りと仕事」 墨田区 (株) アーテス
- ・ 3月2日 : 「ファッション業界の現状と仕事について」「百貨店・SC業界の仕事とは」 (株)大丸松坂屋百貨店人事部 (株)パルコ人事部とのコラボレーション企画

継続2事業

●アドバイザー・ボード

I F I が運営する講座の内容や運営手法について、意見やアドバイスを具申・提案する委員会。平成28年度は9月2日に、「ファッション業界が変わるべき方向」という議題で討議。

その中で、①ファッションのカテゴリーの広がりに対する対応—「衣」だけではなく、雑貨、ジュエリー、コスメ、インテリア、「食」— や②グローバル化に対する対応—海外ブランドとの連携事業、東南アジアとの連携事業— についての議論がなされ、今後の新講座開発に繋げていく事を確認。

●調査・資料収集

図書および資料の収集並びに一般への公開

ファッションビジネスの調査・研究に有益な図書並びに資料等を収集し、広く一般に公開しているが、さらに内容を充実するため、講師の書籍やファッション誌などを増強。マスター・コースやプロフェッショナル・コース受講生の活用が増加した。

その他事業

他1事業

●カスタムメイド・プログラム

カスタムメイド・プログラムは、企業や団体の要望に応じ、それぞれが抱える課題を克服するための最適なカリキュラムを構築し、研修で改革を進め、初期の目的を達成していくプログラム。

他2事業

●調査・研究事業

1. 「IFI 繊維ファッションビジネス研究会」

繊維ファッション産業を取り巻く環境が複雑かつ急速に変化する中で、「旧来の常識を打ち破るイノベーション」が、各業種の各段階で求められている。IFIでは、他業種を含む各分野で成果を挙げている注目の人から直接話を聞くことで参加者が刺激を受け、所属企業などに戻ってイノベーションを起こすことができるよう、平成23年度に研究会を立ち上げた。1年間の会員制で10回の講演会と2回の交流会で構成される。会員数は前年度の51社から53社に増加した。

	会員	開催
「IFI 繊維ファッションビジネス研究会」	53社	10回

「IFI ネット・ビジネス研究会」

スマートフォンの普及やSNSをはじめとした各種webサービスの進化に伴い、若年層から中高年に至るまで、消費者の購買動向は大きく変化しており、ファッション企業にとってオムニチャネルへの対応の重要性が一段と高まっている。そのような中で、平成28年度は「オムニ時代に進化する消費行動とウェブ戦略」をテーマに、先進的事例・成功事例をもつ6団体にご登壇いただき、Web担当者同士の交流を図る懇親会も開催した。

	開催
「IFI ネット・ビジネス研究会」	6回

●情報提供事業

1. 人材マネジメント懇話会の開催

繊維ファッション企業の人事担当者を対象に、関心が高いテーマを取り上げ、講演と終了後の講師を交えた交流会で、人材育成の環境整備やネットワーク構築に努めた。上期は6月7日(株)高島屋の執行役員総務部長の中野氏に「高島屋の女性リーダー育成と課題」というテーマについて、下期は2月2日、(株)大丸松坂屋百貨店の執行役員人事部長の忠津氏に、新たなグループビジョンに基づいた「くらしの“新しい幸せ”を發明する百貨店における人事戦略」と題して講演いただいた。

2. マスコミ懇談会の開催

マスコミとの懇談会である「一木会」を開催し、I F I の活動を情報発信するとともに、マスコミの理解向上を図るなど、積極的に情報発信を行った。現状は織研新聞、WWD、繊維ニュース、アパレル工業新聞、近代縫製新聞、月刊ファッション販売、アパレルウェブ、通販新聞などが参加している。

3. 広報活動の充実

平成26年度にホームページを全面リニューアルし、各コースの詳細や講師紹介、卒業生の声などを随時更新している。加えて、マスター・コースの卒業生によるブログやフェイスブック、ツイッターなどによる情報発信も積極的に行った結果、I F I のホームページやフェイスブックへのアクセス数が増えるなど、良い相乗効果をもたらした。

●交流・協力事業

1. 経済産業省、文部科学省に協力

経済産業省のファッション・デザイン教育機関の審査や、文部科学省が文化学園に委託している「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」に委員として参画。

2. 墨田区との共同事業の推進

墨田区は本財団の最大の出捐元であり、地元の繊維ファッション企業も多くが出捐している。墨田区との連携を一層強化するため、「墨田区・I F I 連絡協議会」で「ファッション産業人材育成支援事業」（半額補助）の対象を、マスター・コースと地域開催講座を除く全ての講座に適用していただいた結果、受講生の動員増に繋がった。

さらに「すみだ次世代経営研究協議会」に委員として参加したほか、地元の東京ニットファッション工業組合（TKF）に、I F I がどのような貢献ができるかについて意見交換した。